

別表第1（第5条関係）

事 務 事 業 評 価 シ ー ト

評価対象年度 平成 20 年度

【事務事業の基本的事項】

事 務 事 業 名	石綿セメント管更新事業				
担 当 課 係 名	企業局 業務 課	業務 係	作成者	富岡 明	
総 合 計 画 で の 位 置 づ け	施策の大綱	安心・安全で潤いのある生活環境のまち			総合計画のページ 75～76
	基本計画	水道の安定供給と施設の整備			
	主要施策	施設の維持管理			
予 算 費 目	上水道事業 会計	1 款 上水道資本的支出	1 項 建設改良費	3 目 改良工事費	
事 業 期 間	平成 3 年度 ～ 平成 21 年度		新規／継続の区分		継続
性 質 区 分	☐ 市民サービス ☒ 公共事業 ☐ 施設維持管理 ☐ 補助金 ☐ 内部管理				
根 拠 法 令 等					
事 務 区 分	☒ 自治事務 ☐ 法定受託事務				
運 営 方 法	☐ 直 営 ☒ 直営（一部民間委託） ☐ 民間委託(全部) ☐ 補 助				

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	上水道区域内の給水対象者
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	老朽化した石綿セメント管を漏水防止対策と地震対策としてダクタイル鋳鉄管等に敷設替えを行いライフラインとしての機能強化と効率的な配水を行う。
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	D I P L = 8 7 6 . 5 m (敷設替)

【事務事業の推移】

	項 目			単位	18年度実績	19年度実績	20年度実績	
効果	活動指標	石綿セメント管更新延長	目標	m	9,002	9,002	9,002	
			実績	m	6,427	7,574	8,450	
			達成度	%	71.4%	84.1%	93.9%	
	成果指標	有収率	目標	%	90.0	90.0	90.0	
			実績	%	82.1	82.1	82.2	
			達成度	%	91.2%	91.2%	91.3%	
投下コスト	項 目		総事業費		18年度決算額(千円)	19年度決算額(千円)	20年度決算額(千円)	
	事業費（人件費を除く）(A)				66,255	74,244	48,930	
	人 件 費 (B)		—		2,356	2,421	2,378	
	職 員 数		—		0.30	0.30	0.30	
	職 員 平 均 人 件 費		—		7,853	8,071	7,925	
	(A) + (B) 投下コスト				68,611	76,665	51,308	
	財源内訳	国 庫 支 出 金				16,563	15,998	12,232
		県 支 出 金						
		地 方 債				47,600	57,200	35,600
		そ の 他						
		一 般 財 源				4,448	3,467	3,476
	単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—		10,675	10,123	6,072
市民1人当たりのコスト(円)		—		2,152	2,439	1,653		

【事務事業の今までの成果】

老朽管更新により漏水が減少し末端給水圧が向上するとともに有収率も上がる。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	特になし
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	石綿管による飲料水への不安を解消する。

【一次評価】

判 定	事 業 の 方 向 性	判 定 に 至 っ た 理 由
A	A 現状のまま継続（実施）	有収率の向上と石綿管への不安を解消することで、A判定とした。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）

【二次評価】

判 定	判 定 に 至 っ た 理 由
A	該当地域の有収率向上と水道水の安定供給確保のために必要な事業であり、引き続き推進すべき事業と考えます。

一次評価診断図

